

長島町通における社会実験の検証結果について

令和7年1月

名古屋市道路利活用課

社会実験実施概要

実施内容

- ・道路形状の変更
- ・植物プランター等による緑化等
- ・休憩施設の設置
- ・キッチンカーの出店
- ・みちにわマルシェ開催
- ・植栽の水やりや清掃等の維持管理

緑政土木局 道路利活用課

環境局 環境企画課

まちづくり協議会
エリアマネジメント㈱
(住宅都市局 都心まちづくり課)

実施期間

令和6年10月21日(月)から11月10日(日)まで【計21日間】



交通状況調査概要

調査目的

道路形状の変更による交通状況の変化や交通安全、交通処理上の課題を把握する

調査項目

- (1) 交通量(自動車・自転車・歩行者)
- (2) 走行速度
- (3) 逆走車数
- (4) 駐停車状況
- (5) 通り抜け台数
- (6) 周辺交通状況(パーメ利用状況・路上駐停車状況)

調査日数

- ・・・ 社会実験の実施前及び実施中の平日休日各1日【計4日間】
(実験前)(実験中)
平日: 10/9(水), 11/6(水)
休日: 10/5(土), 11/3(日)
- ・・・ 社会実験の実施中及び実施後の平日各1日【計2日間】
11/7(木), 12/4(水)
- ・・・ 社会実験実施中の平日随時【計4日間】
10/21(月), 10/30(水),
11/5(火), 11/6(水)

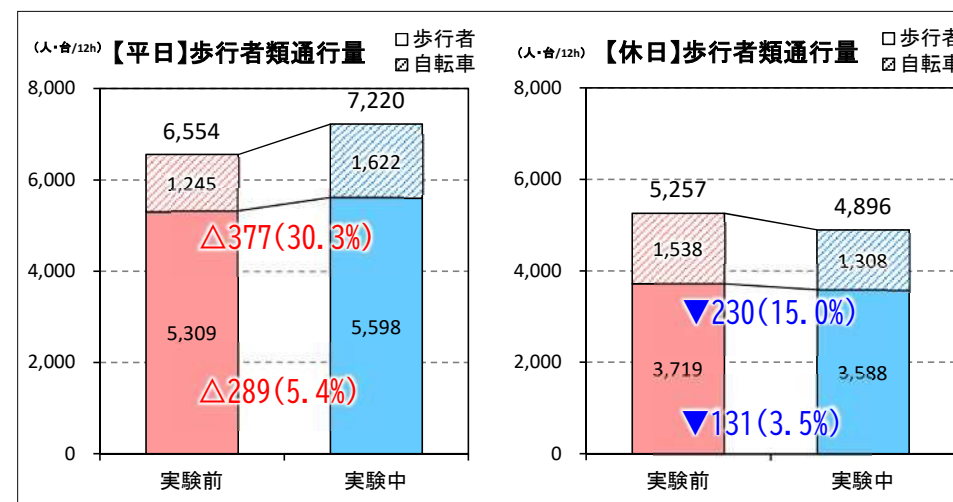
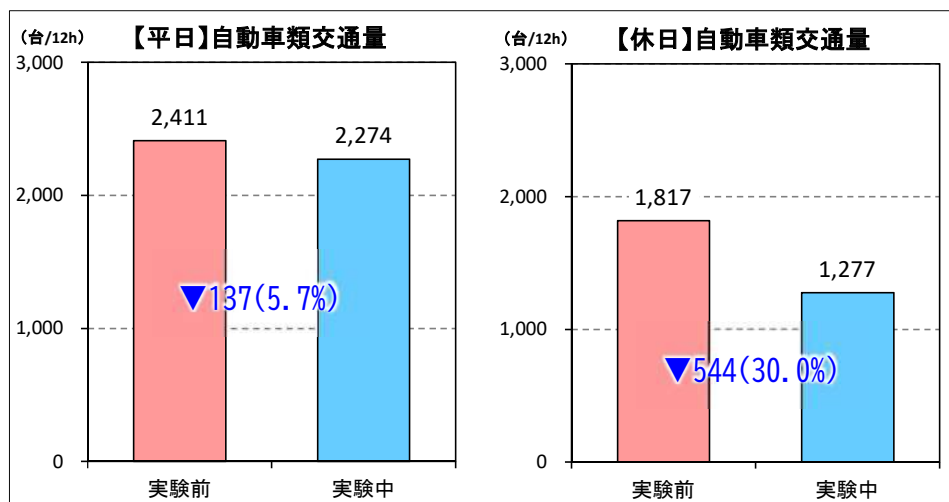
(1) 交通量（自動車・自転車・歩行者）

調査方法

ビデオカメラにて映像を取得し、基準の断面を通行する自動車・自転車・歩行者を通行位置別に観測（7時から19時までの計12時間）
（V. drug前）



調査結果

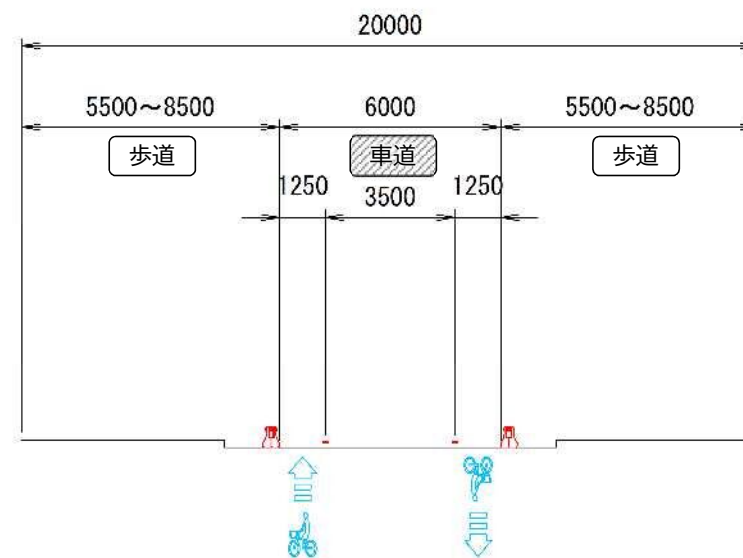
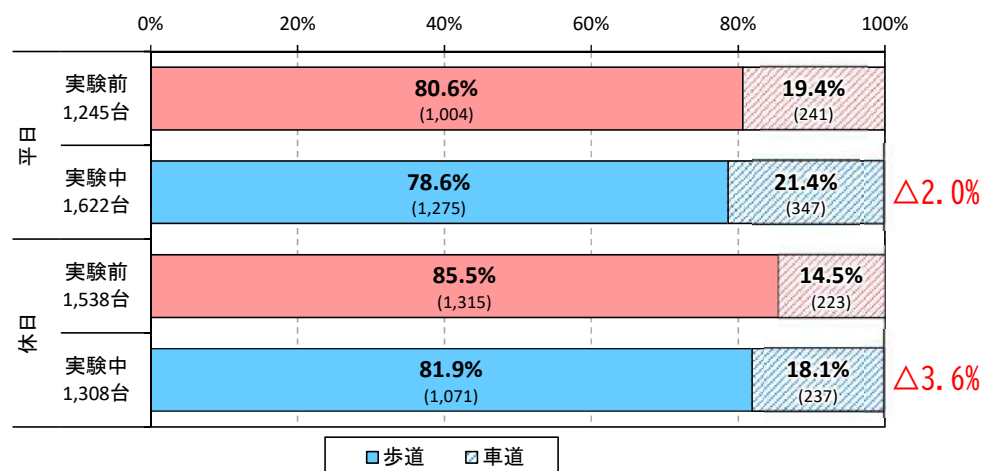


自動車類は平休日ともに減少傾向、自転車・歩行者ともに平日は増加傾向、休日は減少傾向（休日は調査の曜日が影響した可能性あり）

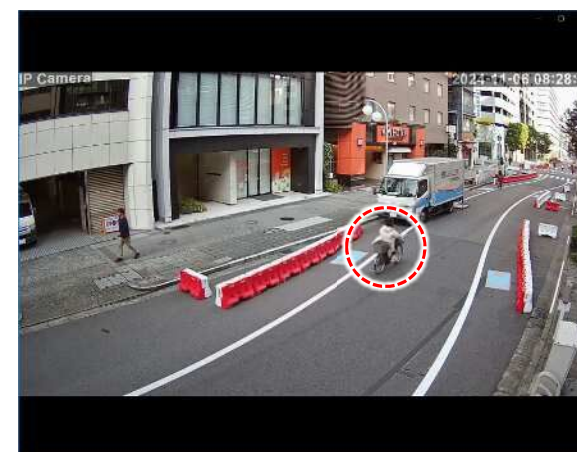
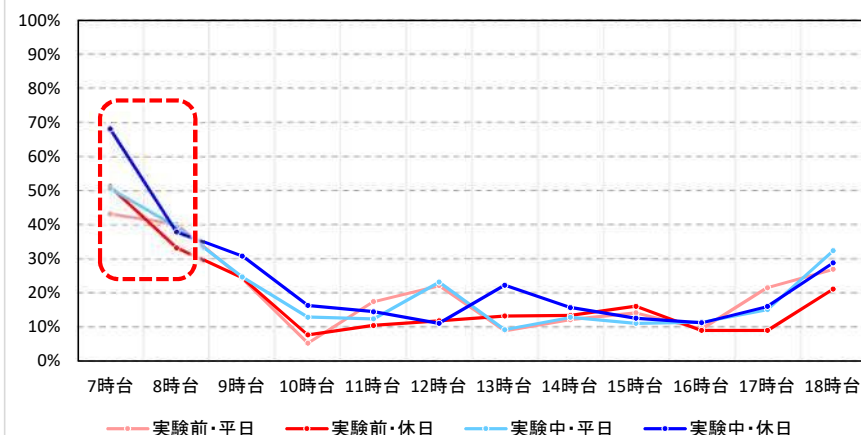
(1) 交通量（自転車の通行位置）

調査結果

自転車の通行位置比較



車道通行する自転車の時間帯別推移



駐停車車両の少ない朝の時間帯は車道を通行する自転車が多い

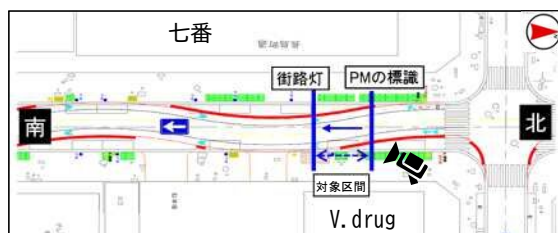
駐停車車両により、やむを得ず車道中央を通行する自転車あり

自転車の通行空間を確保することで、車道を通行する自転車が増加したが、駐停車車両との錯綜も見られた

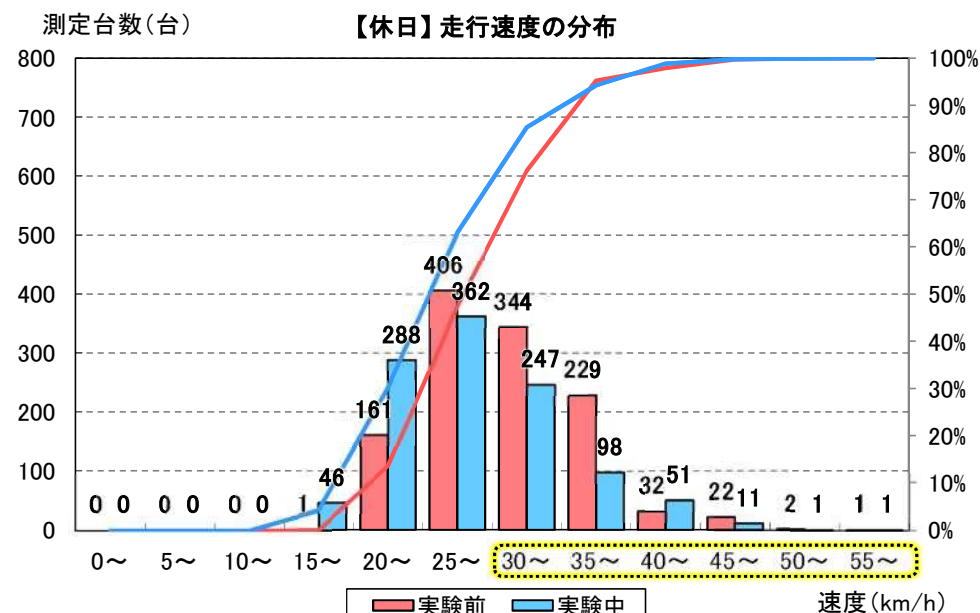
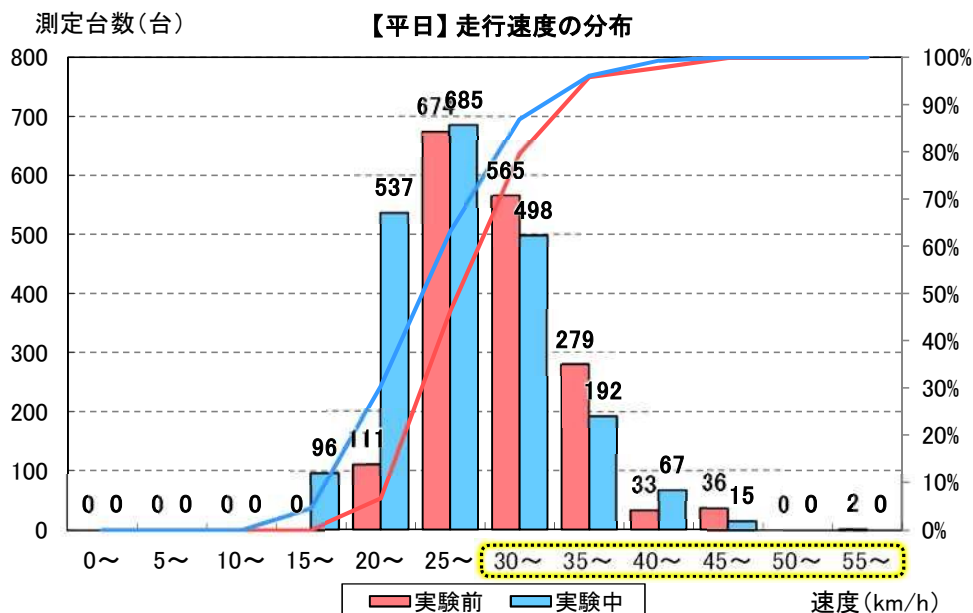
(2) 走行速度

調査方法

ビデオカメラにて映像を取得し、10m程度の区間を通過するのに要した時間から区間速度を測定（7時から19時までの計12時間）
（他の交通等の影響を受けていない自由走行車両のみを対象）



調査結果

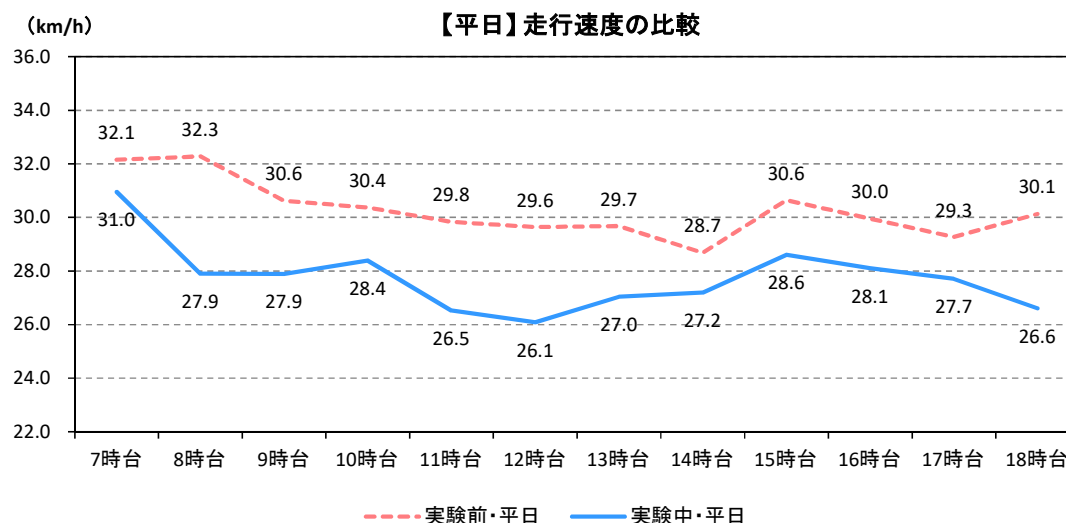


30km/h以上の車両：実験前53.8%→実験中36.9%（15.6%減）

30km/h以上の車両：実験前52.6%→実験中37.0%（16.9%減）

(2) 走行速度

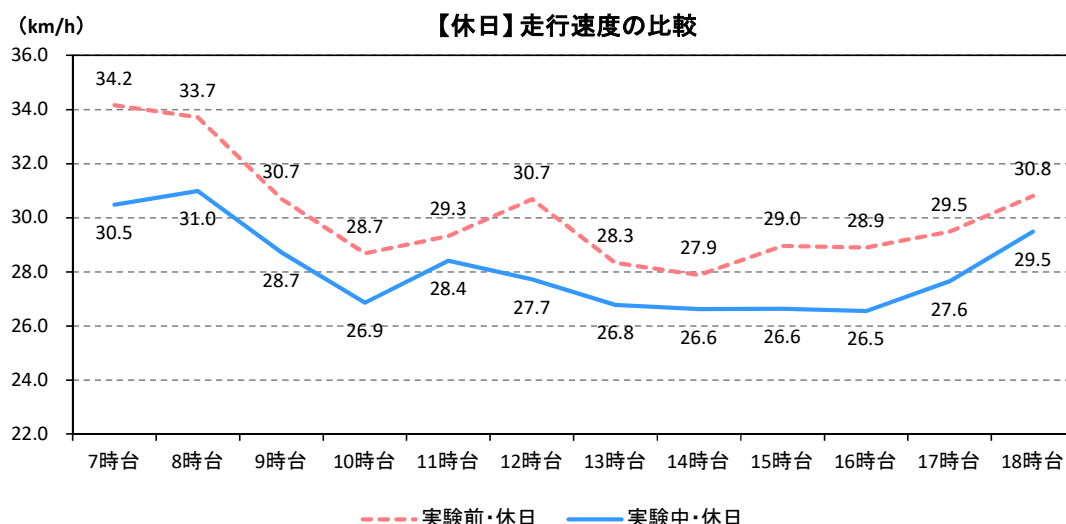
調査結果



実験前の平均走行速度：30.2km/h（測定台数：1,700台/12h）

実験中の平均走行速度：27.6km/h（測定台数：2,090台/12h）

平均走行速度：実験前と比較して2.6km/h* 低下



実験前の平均走行速度：29.9km/h（測定台数：1,198台/12h）

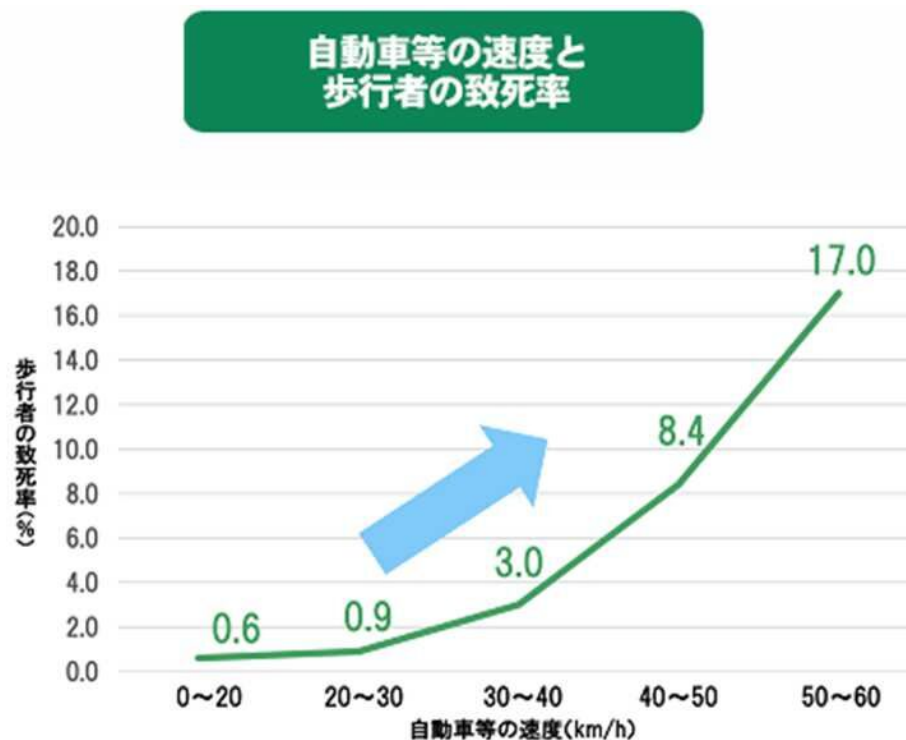
実験中の平均走行速度：27.7km/h（測定台数：1,105台/12h）

平均走行速度：実験前と比較して2.2km/h* 低下

※平日・休日ともに統計的に有意差あり
（実験前と実験中の平均走行速度の差は、誤差や偶然ではなく、意味のある差）

(2) 走行速度

参 考



【出典】

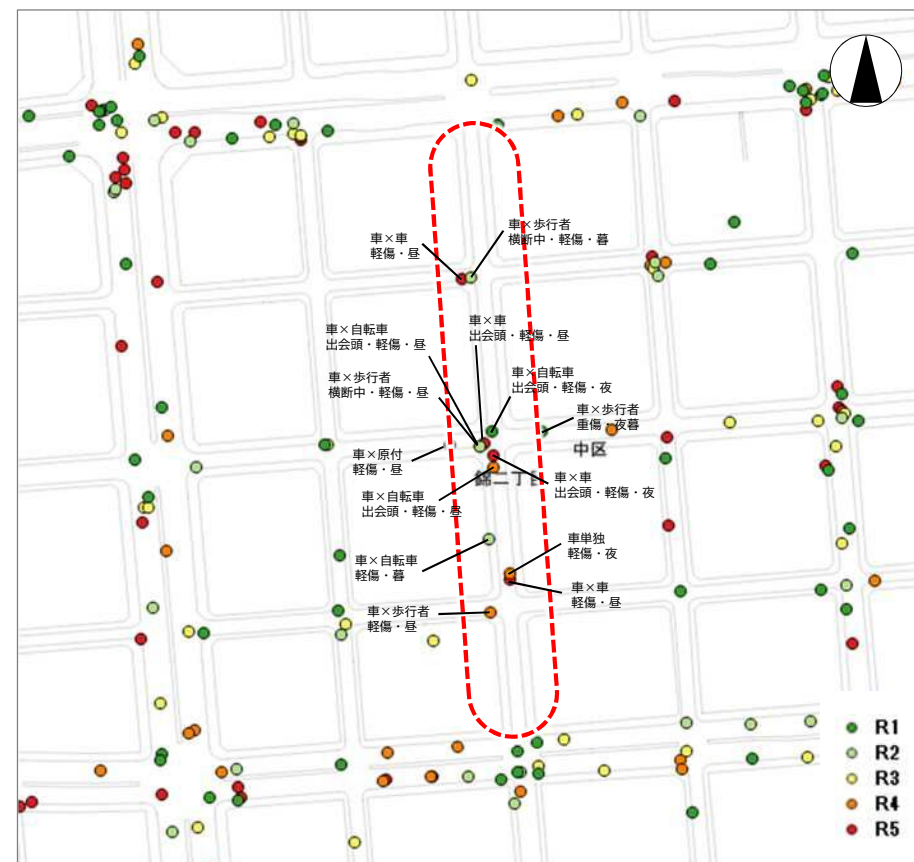
警察庁資料より作成

※1 「自動車等」とは、自動車、自動二輪及び原動機付自転車をいう。

※2 平成29年から令和3年までに車道幅員5.5m未満の道路の単路で発生した人対車両事故の分析による。

※3 致死率とは、死傷者数に対する死者数の割合をいう。

人身事故データ (R1~R5)



人身事故は交差点内、交差点付近で多く発生している

自動車等の速度が30km/hを超えると、歩行者の致死率が急激に上昇

(3) 逆走車数

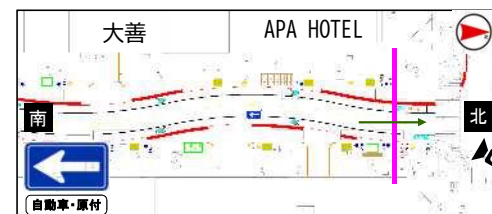
調査方法

ビデオカメラにて映像を取得し、一方通行規制の違反車両を観測（0時から6時まで、22時から24時までの計8時間）

北街区

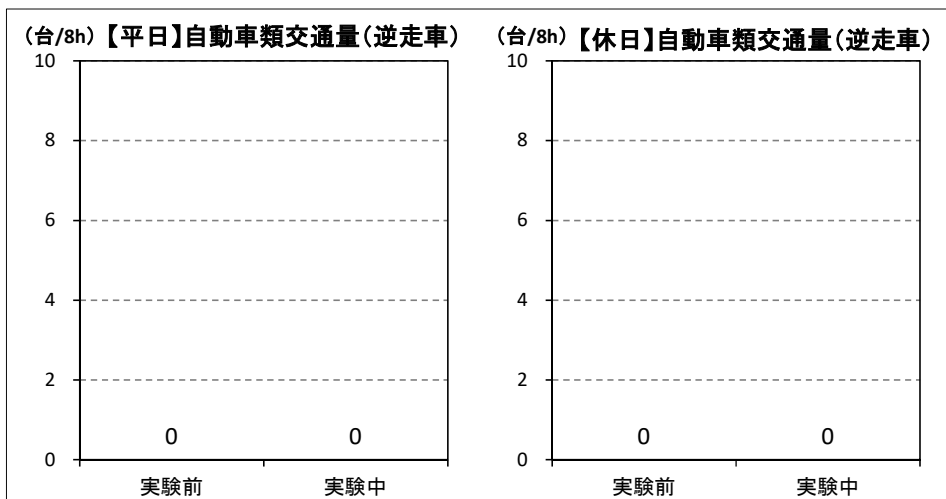


南街区

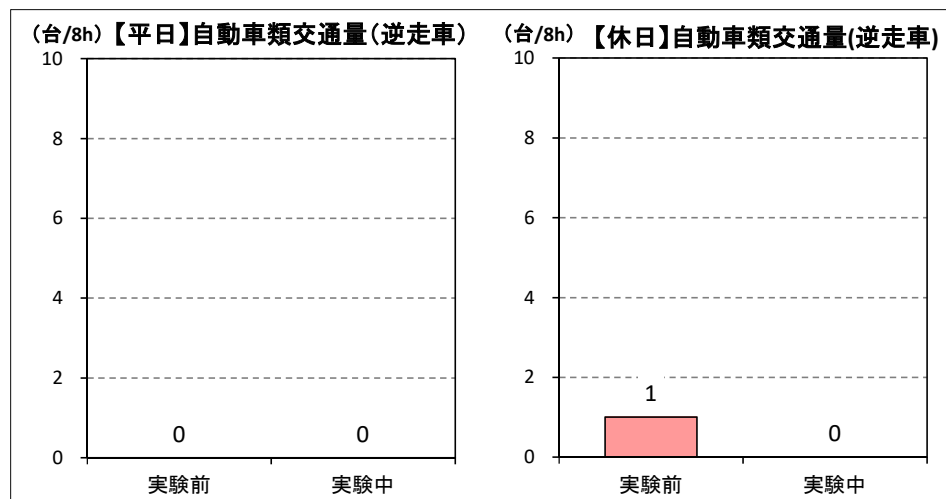


調査結果

北街区



南街区



車道を狭めることで、物理的・視覚的に逆走を抑止

夜間において、実験前は逆走車が1台確認されたが、実験中の逆走車は確認されなかった

(4) 駐停車状況

調査方法

ビデオカメラにて映像を取得し、駐停車車両の位置・台数・時間を測定（7時から19時までの計12時間）



※パーキングメーター休止台数：13台



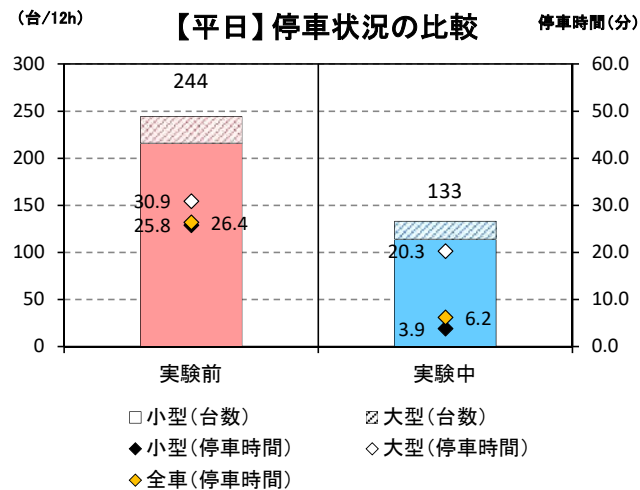
撮影状況



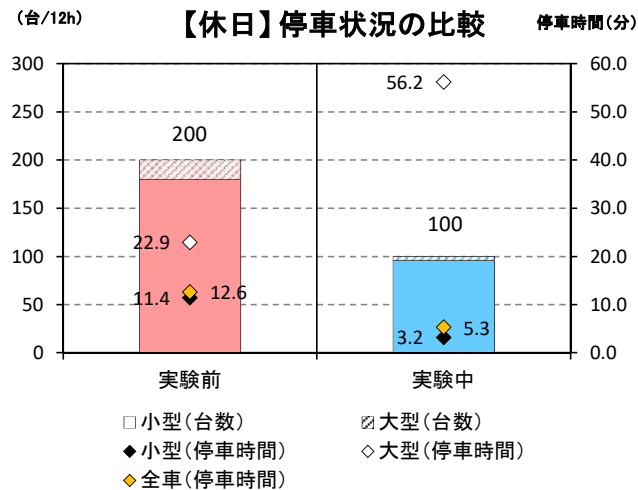
撮影イメージ

※実験前はパーキングメーターの枠内と枠外を未分類

調査結果



		平日	実験前	実験中
台数	小型	216台	114台	
	大型	28台	19台	
	全車	244台	133台	
平均停車時間	小型	25.8分	3.9分	
	大型	30.9分	20.3分	
	全車	26.4分	6.2分	



		休日	実験前	実験中
台数	小型	180台	96台	
	大型	20台	4台	
	全車	200台	100台	
平均停車時間	小型	11.4分	3.2分	
	大型	22.9分	56.2分	
	全車	12.6分	5.3分	

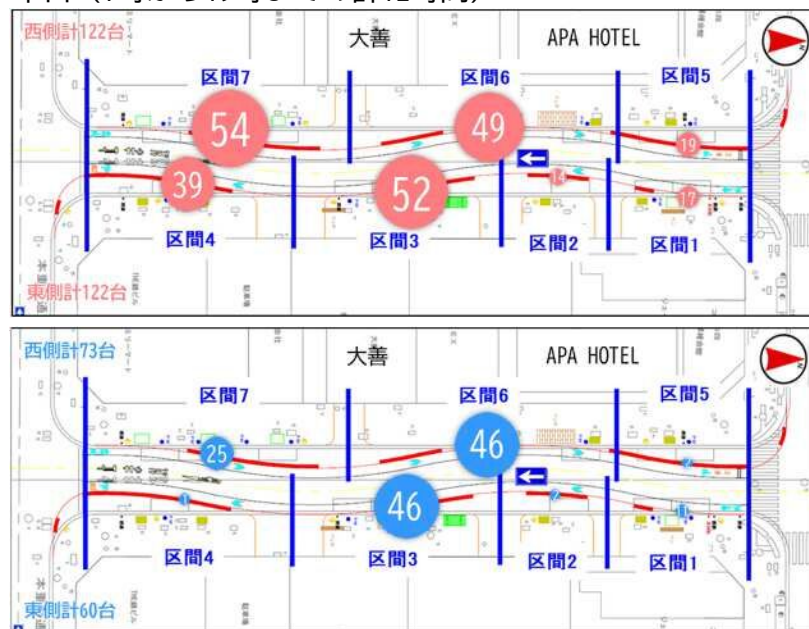
※実験前はパーキングメーターの枠内（60分以内駐車可）と枠外の駐停車車両を”合算”で集計
実験中はパーキングメーターを休止した状態で駐停車車両を集計

パーキングメーターを休止中も一定数の駐停車が確認された、また多くは10分以内（約9割）※平休日合計:206/233台

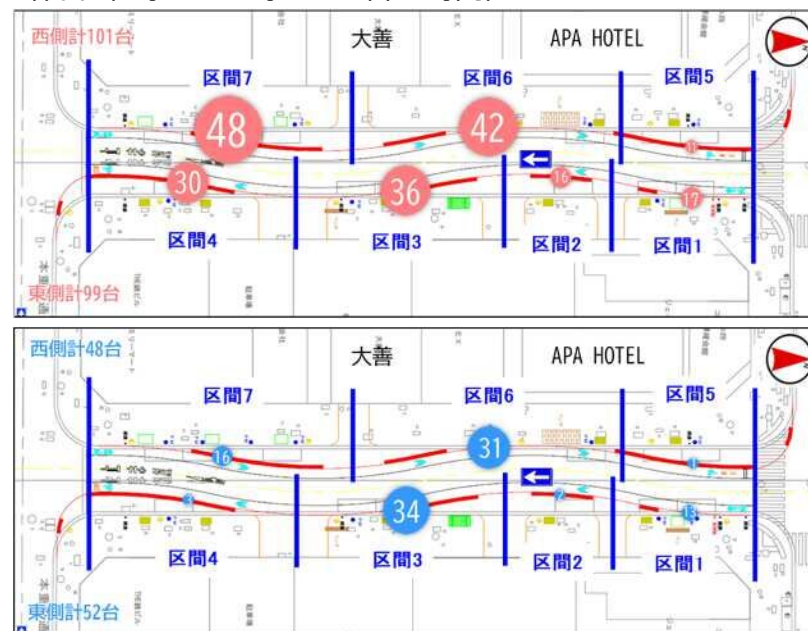
(4) 駐停車状況（駐停車位置）

調査結果

平日（7時から19時までの計12時間）

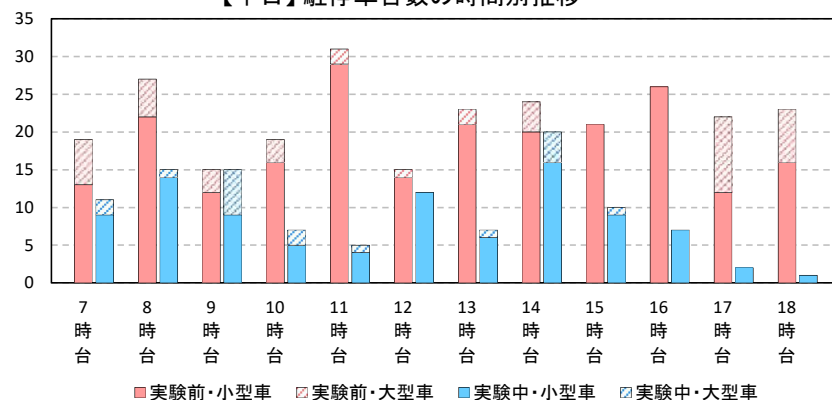


休日（7時から19時までの計12時間）

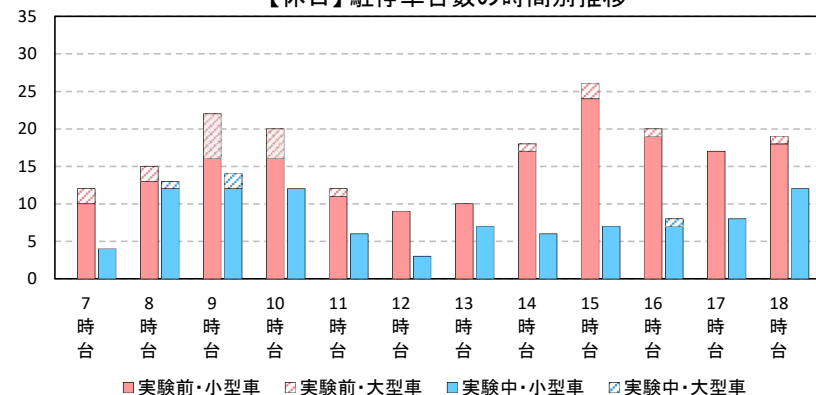


●：実験前 ●：実験中

【平日】駐停車台数の時間別推移



【休日】駐停車台数の時間別推移



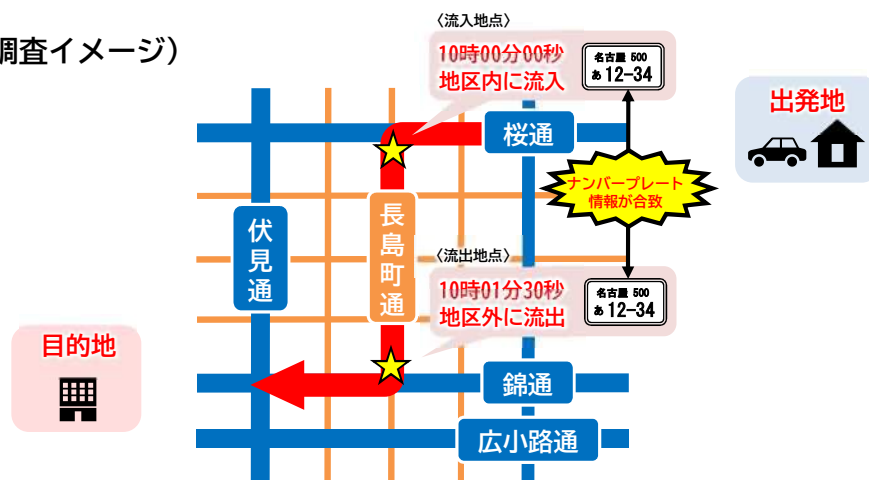
東側と西側で同程度の駐停車あり・実験中も街区中央付近に駐停車あり

(5)通り抜け台数

調査方法

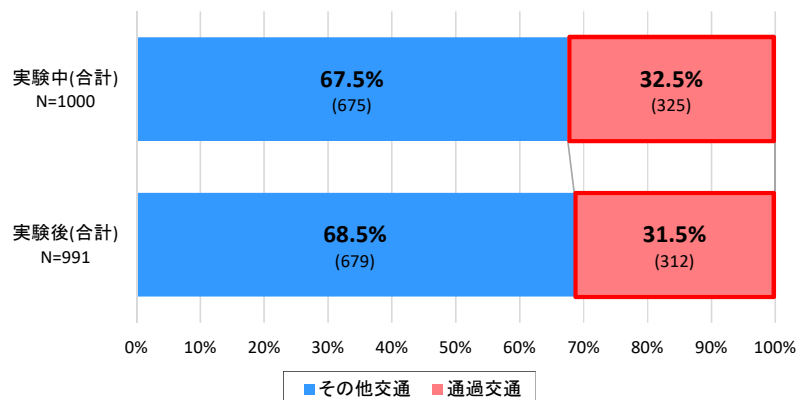
桜通長島町交差点からの流入車両と錦通長島町交差点の流出車両のナンバープレートと通過時刻を人手にて記録しマッチングを実施
(7時から9時まで、11時から13時まで、17時から19時までの計6時間)

(調査イメージ)

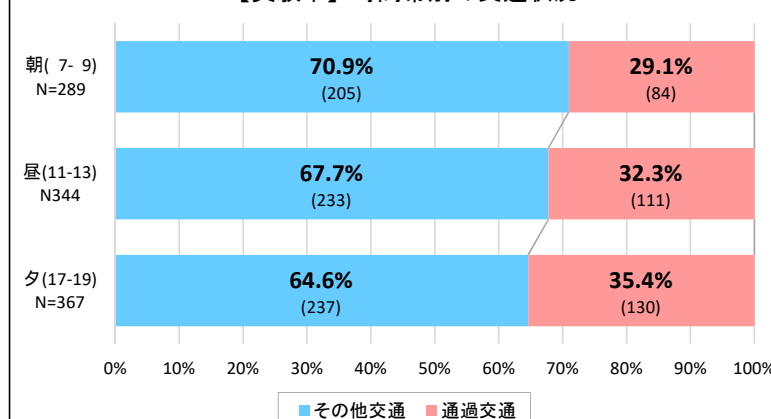


調査結果

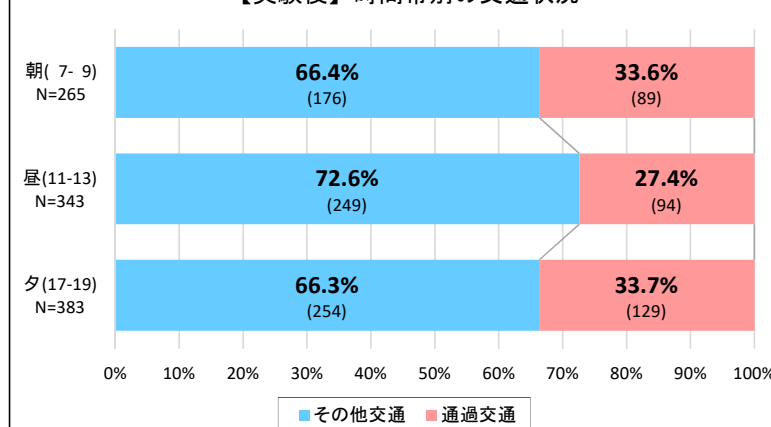
【実験中】と【実験後】の通過交通の比較



【実験中】時間帯別の交通状況



【実験後】時間帯別の交通状況



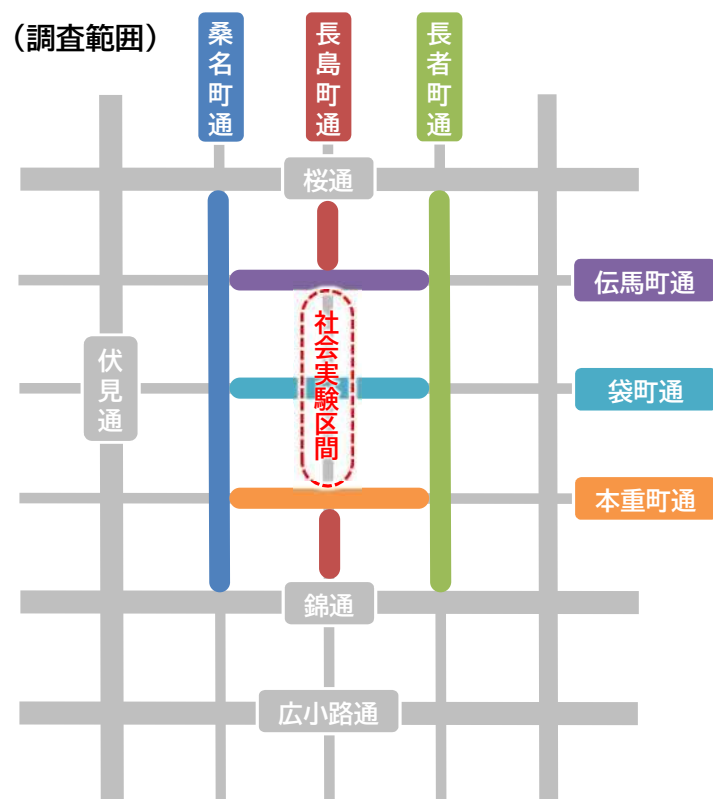
※1ルートのための調査のため、その他交通には他ルートの通過交通が含まれています

流入車両の約3割が当該ルートを使った通過交通、また実験中と実験後(現状)では、通過交通の状況に大きな変化なし

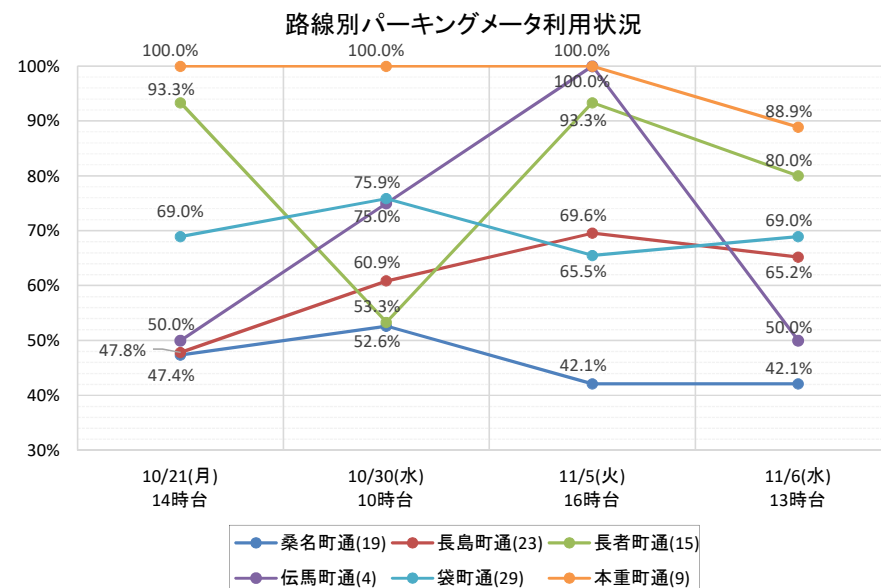
(6) 周辺交通状況（パーメ利用状況・路上駐停車状況）

調査方法

パーキングメーターの利用台数を人手にて記録（随時実施）
併せて地区内のコインパーキングの空車状況を確認



調査結果



路線名	収容台数	利用台数			
		10/21(月)晴	10/30(水)晴	11/5(火)晴	11/6(水)晴
桑名町通	19	9 (6)	10 (6)	8 (2)	8 (6)
長島町通	23	11 (3)	14 (3)	16 (5)	15 (2)
長者町通	15	14 (14)	8 (13)	14 (12)	12 (5)
伝馬町通	4	2 (5)	3 (5)	4 (2)	2 (3)
袋町通	29	20 (2)	22 (2)	19 (4)	20 (0)
本重町通	9	9 (4)	9 (2)	9 (3)	8 (3)
合計	99	65 (34)	66 (31)	70 (28)	65 (19)

※括弧内はパーキングメーター枠外の駐停車車両台数、そと数

料金未納や時間超過（＝パーキングチケット発券機の赤点減）の不適正な利用車も数多くみられた

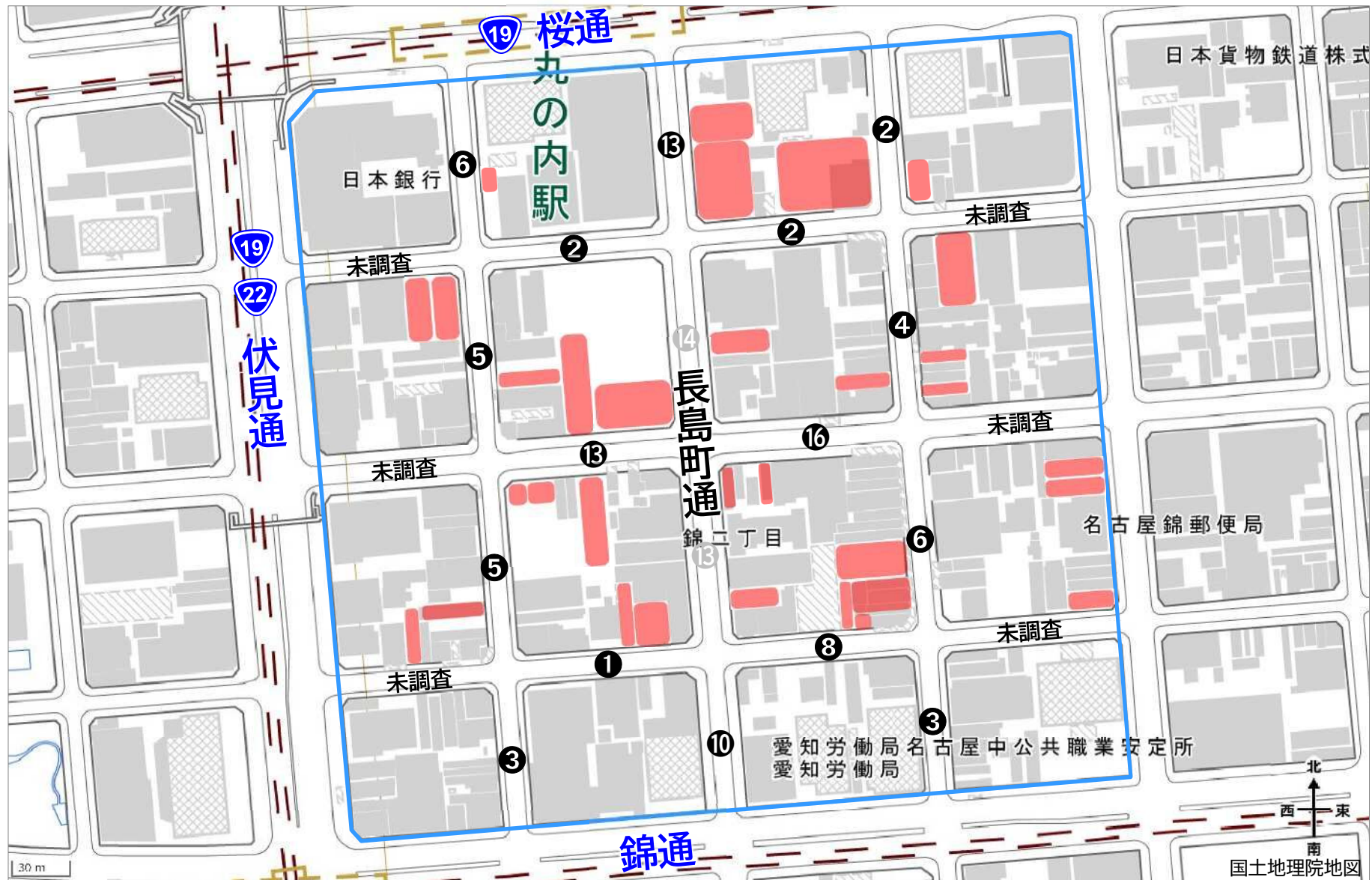
地区内のコインパーキングには一定数の空車あり

長島町通のパーキングメーター休止中も地区内のパーキングメーターやコインパーキングには空車あり

(6) 周辺交通状況（パーキングメーター・民間コインパーキング）

参考

R6. 10～11時点



①：街区毎のパーキングメーター収容台数

検証結果まとめ

- ・ 自動車の速度や交通量が低下した、また自転車・歩行者の交通量はともに平日は増加し休日は減少した
- ・ 流入車両の3割以上が通過交通、また実験中と実験後(現状)で通過交通の状況に大きな変化はなかった
- ・ 自転車通行空間を設けることで、車道を通行する自転車が増加した

一方で、駐停車車両がいる場合、自転車の通行を阻害する事象が見られた

- ・ 自動車の逆走車は、実験前に1台確認されたが、実験中には確認されなかった
- ・ パーキングメーター休止中も、一定数の駐停車が確認された

また地区内のコインパーキングや他のパーキングメーターには空車があった